

「認知症に関する意識調査」調査結果について

1 調査目的

令和6年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」に伴い、都道府県・市町村に対し計画策定が努力義務とされた。今後県計画を策定するにあたり、計画をより充実させたものにするために県民が認知症に対しどのようなイメージを持っているか把握するために実施する。

2 調査方法等

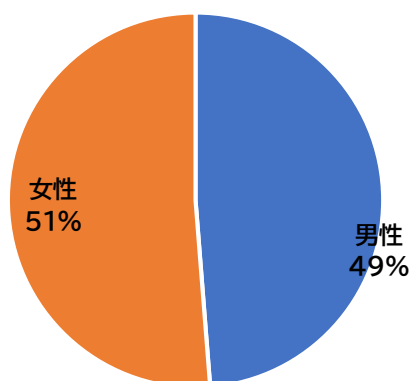
＜Web 式：回答数 400＞

- ・実施期間：令和7年2月6日～2月13日
- ・実施場所：Web 上（愛媛県政課題調査）

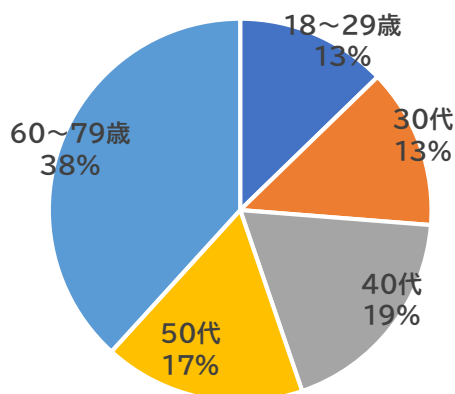
3 調査結果の概要

(1)回答者について

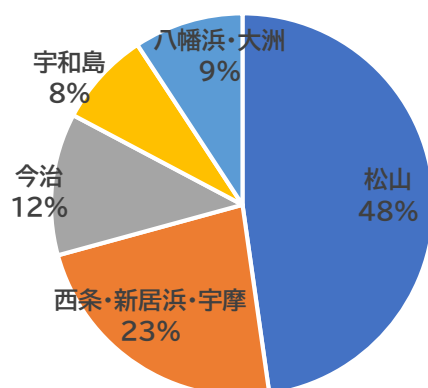
性別



年代

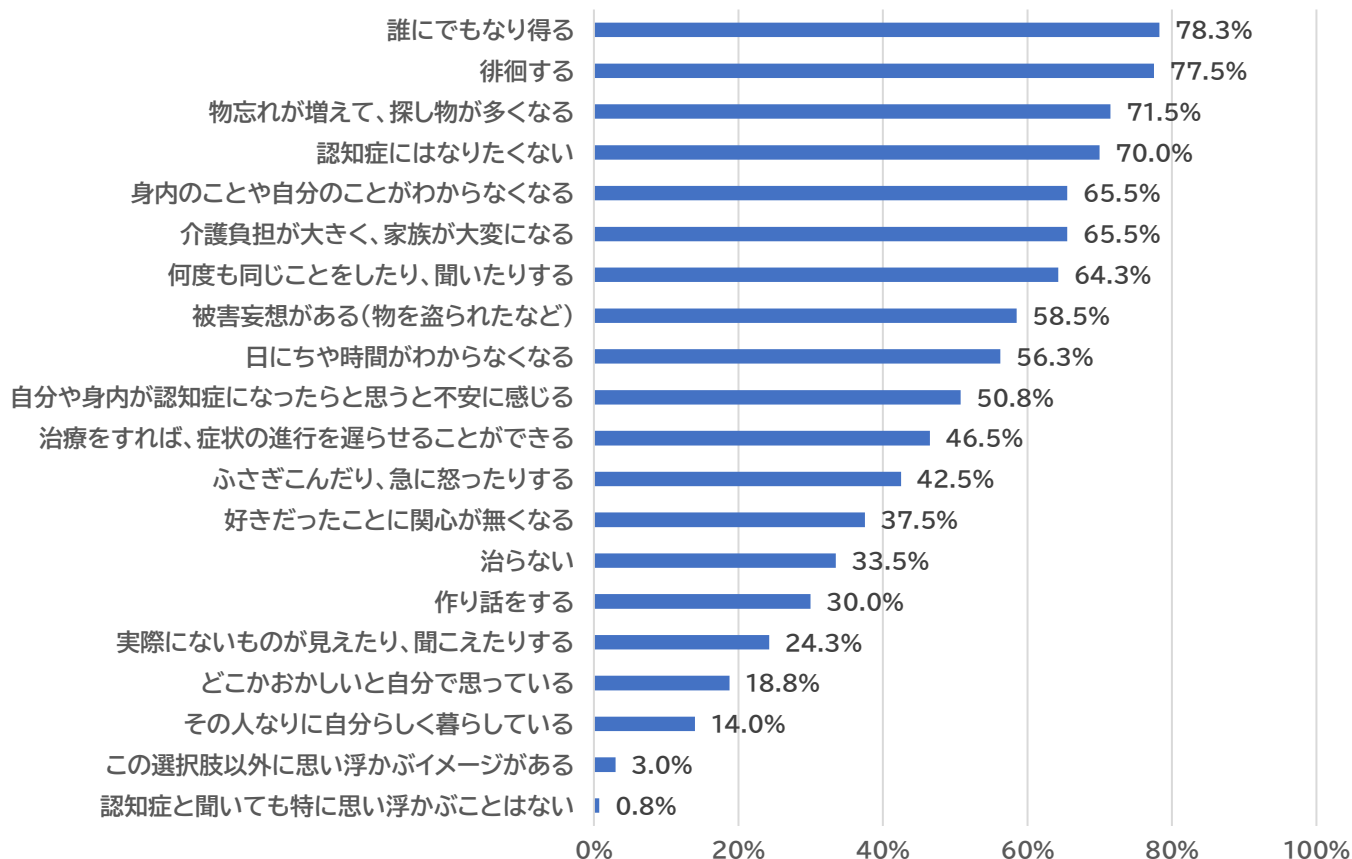


居住地



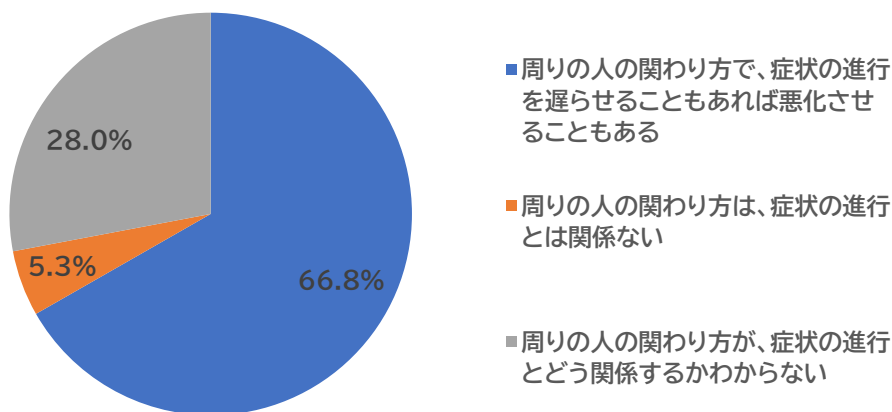
(2)「認知症」と聞いてどのようなことを思い浮かべるか

「誰にでもなり得る（78.3%）」、「徘徊する（77.5%）」と回答した人が多い一方、「認知症と聞いても特に思い浮かぶことはない」と回答した人は0.8%にとどまり、認知症に対し、何らかのイメージを持っている人がほとんどであるという結果であった。



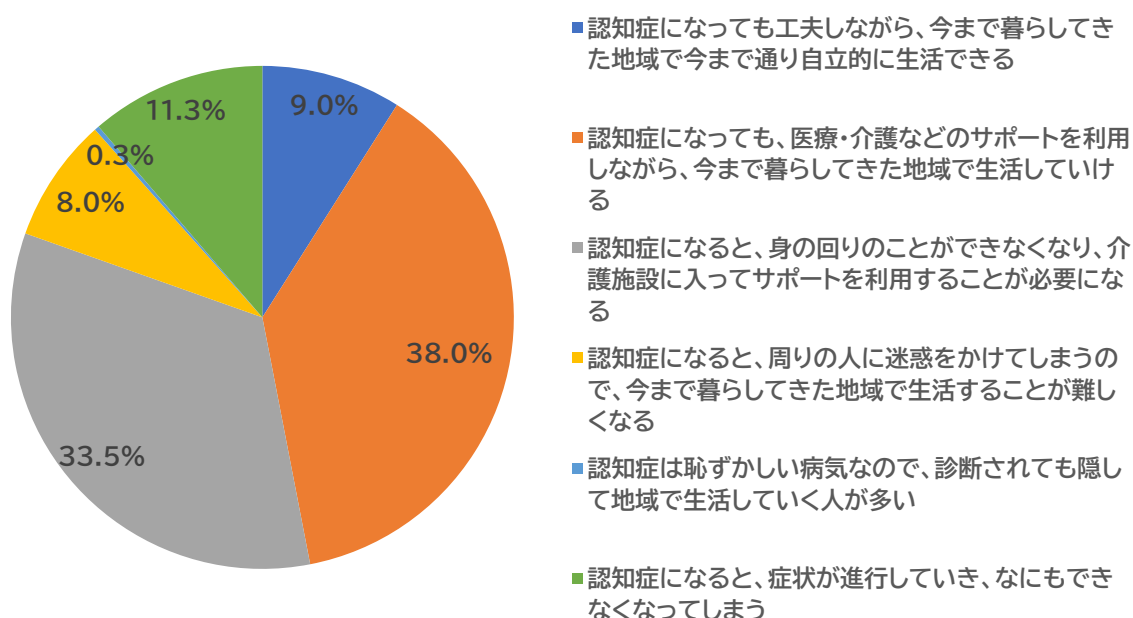
(3)認知症の人と周りの人との関わり方についてのイメージについて

「周りの人の関わり方で、症状の進行を遅らせることもあれば悪化させることもある」という回答が66.8%と、多くの人が周りの人の関わり方が症状の進行に影響を与えるというイメージを持っている結果になった。



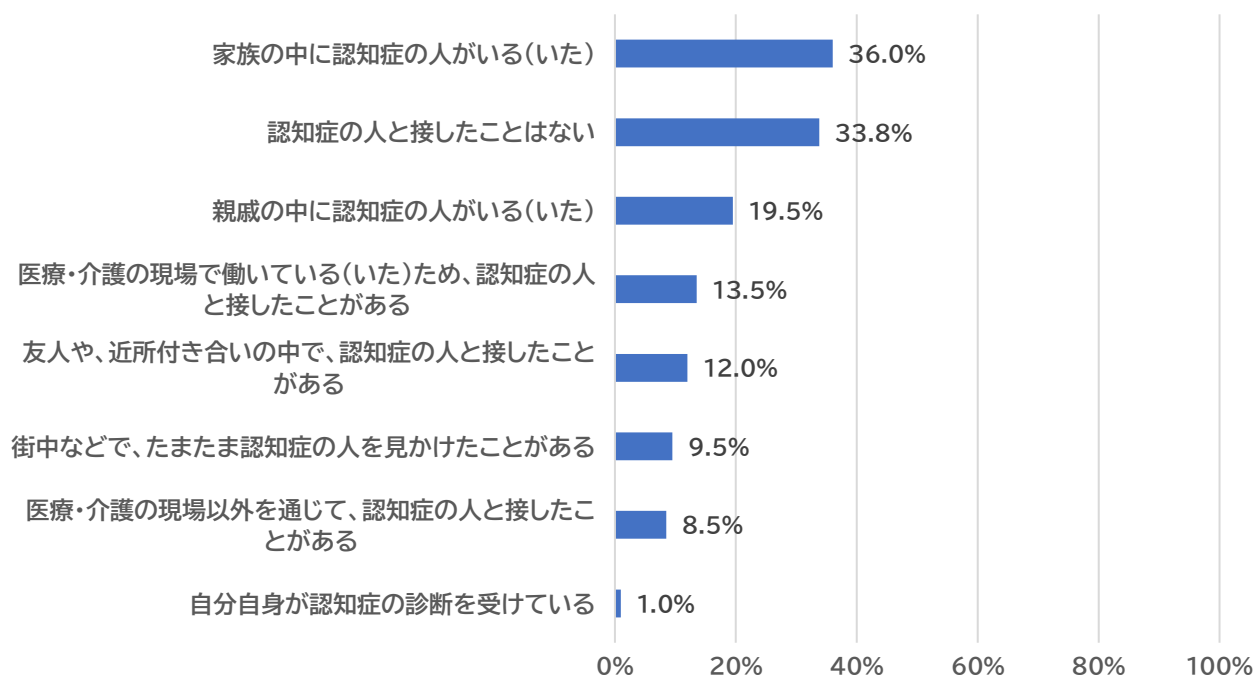
(4) 認知症の人が日常生活を送るうえでどのようなイメージを持っているか

半数以上が今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなるというイメージを持っている結果になった。特に、18～29 歳では「認知症になると、周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで生活してきた地域で生活することが難しくなる」、「認知症になると、症状が進行していき、なにもできなくなってしまう」と回答した人が多かった。

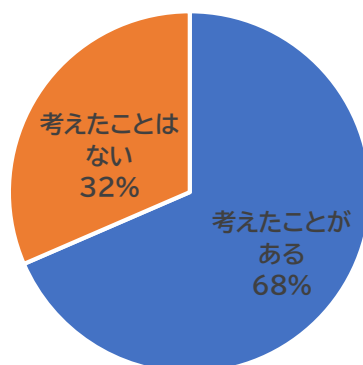


(5) 今までに認知症の人と接したことがあるか

66.3%が何らかの状況で認知症の人と接したことがあるという結果になったが、30代では約半数は認知症の人と接したことがないと回答した。

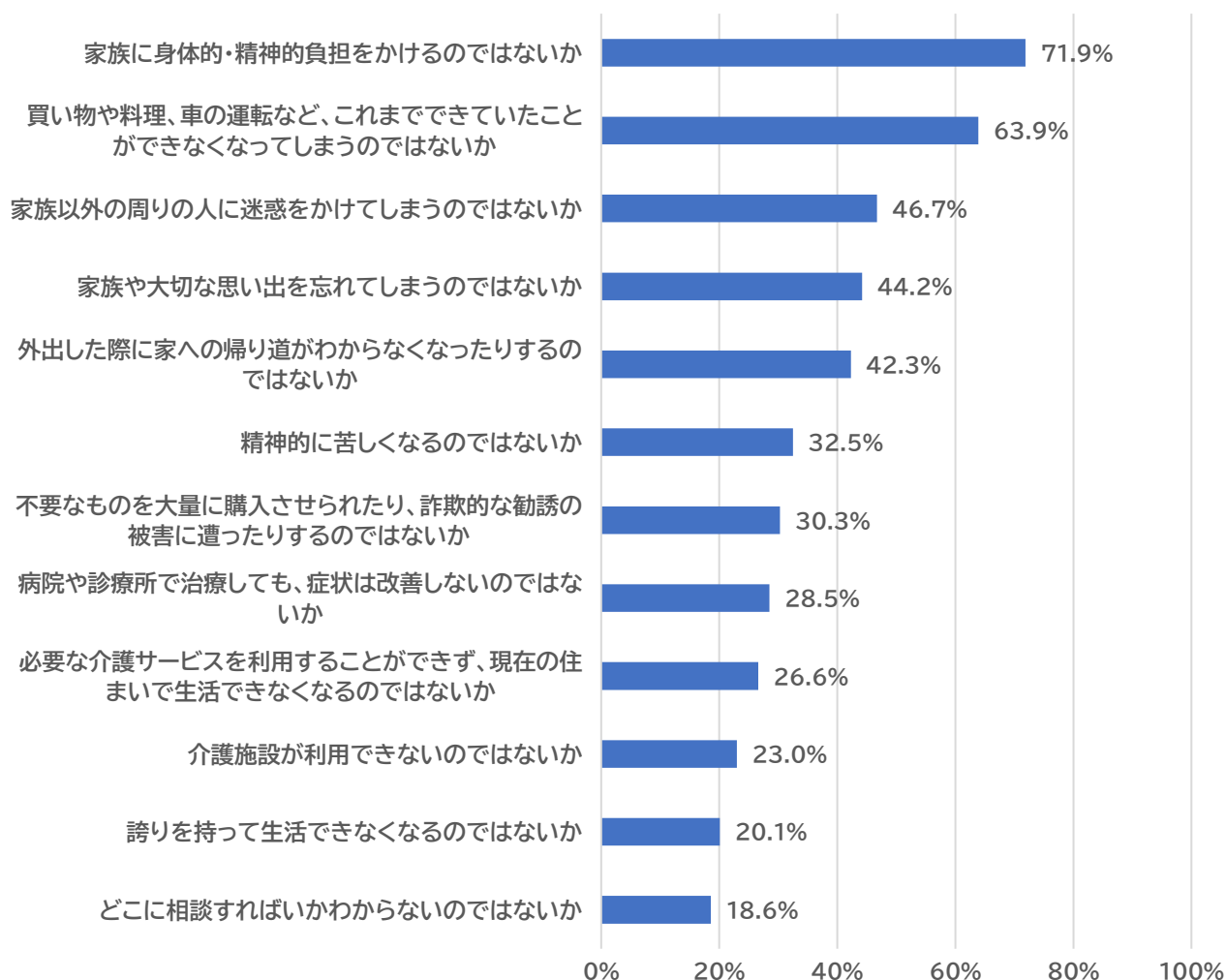


(6)今までに自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいのか考えたことがあるか
約7割が認知症になった時にどうしたらいいのか考えたことがあるという結果になった。



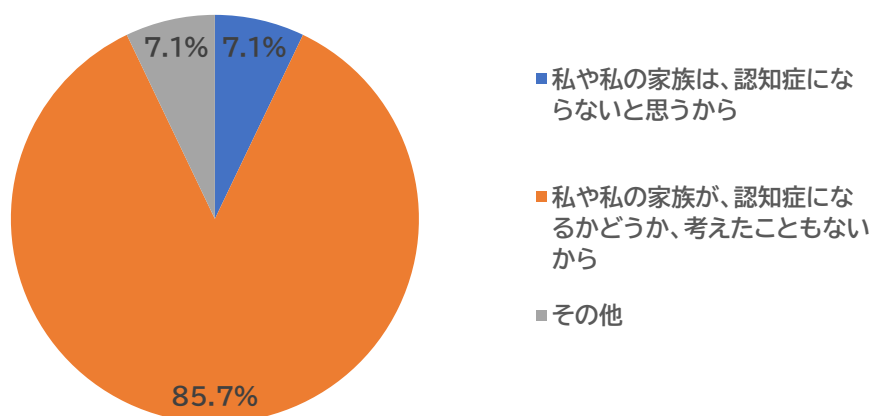
(7)もし、自分や家族が認知症になったら、どのようなことに不安を感じると思うか((6)で考えたことがあると答えた方対象)

家族や周囲の人に負担や迷惑をかけてしまうことや、日常生活でこれまでできていたことができなくなってしまうことに対し不安を感じている人が多い傾向となった。



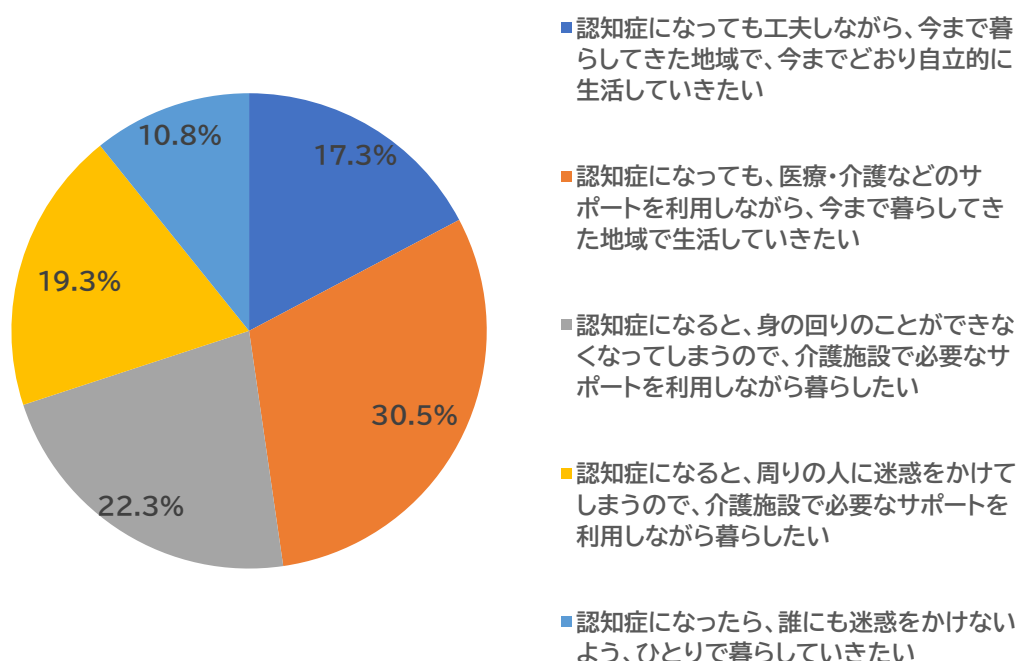
(8)自分や家族が認知症になったら考えたことがない理由は何か((6)で考えたことがないと答えた方対象)

「私や私の家族が、認知症になるかどうか、考えたこともないから」と回答した人が約9割にのぼった。



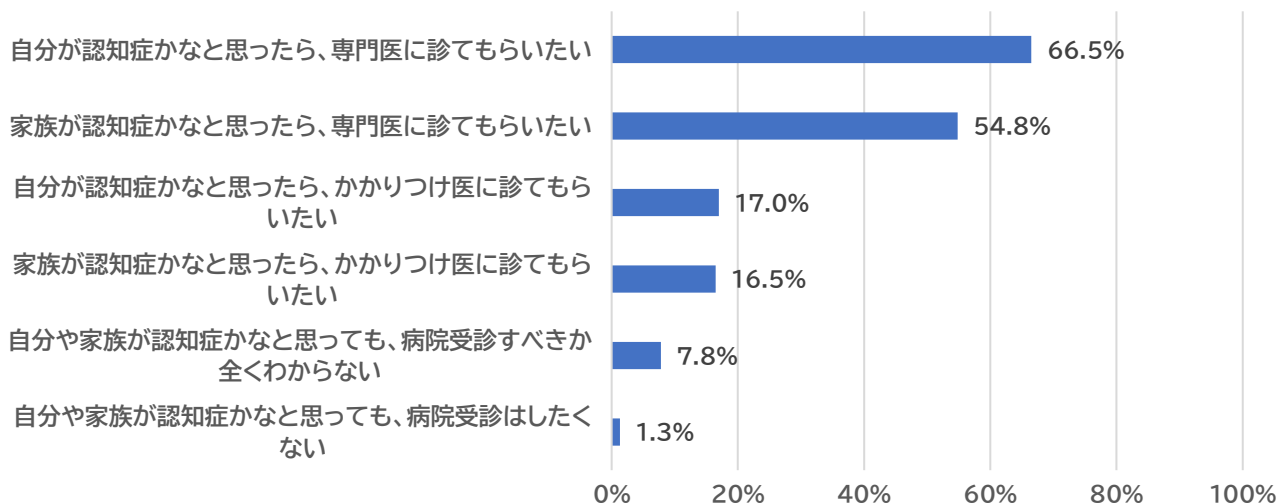
(9)認知症になったらどのように暮らしていきたいか

約半数が認知症になっても今まで暮らしていた地域で生活していきたいと回答したが、40代では「認知症になると、周りの人に迷惑をかけてしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」と回答した人が一番多く、18～30代では「認知症になったら、誰にも迷惑をかけないよう、ひとりで暮らしていきたい」と回答した割合が他の年代と比べ高かった。



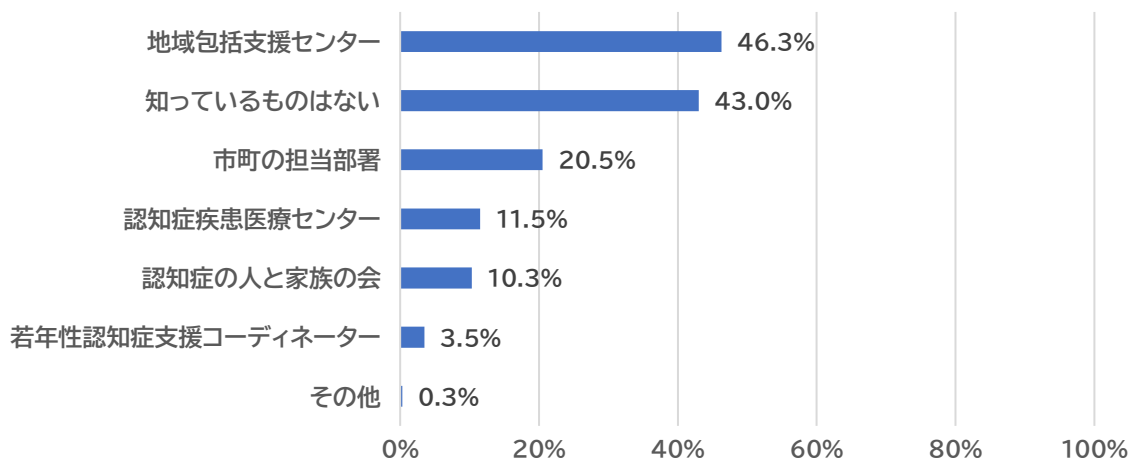
(10) 自身や家族が認知症になったら、病院受診することに関しどう考えるか

約9割が病院受診に関し、前向きであるという結果になった。



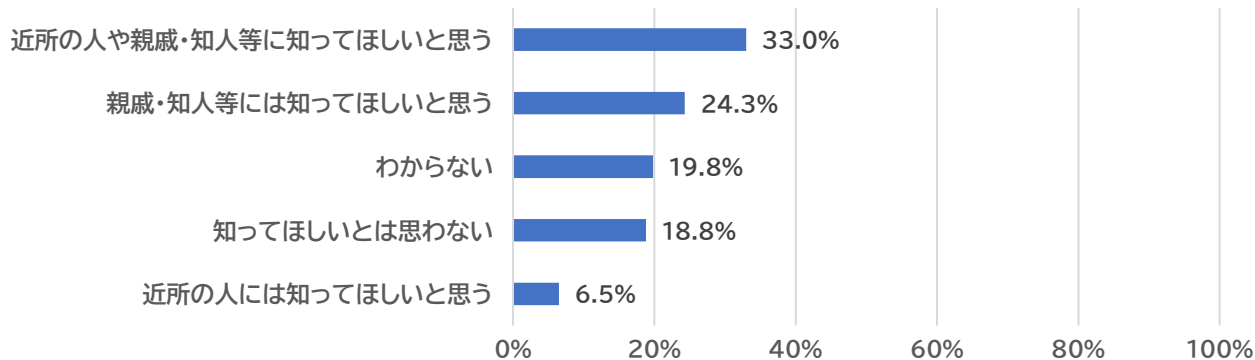
(11) 認知症に関する相談窓口について知っているものはあるか。

地域包括支援センターを知っているとの回答が46.3%であった一方、認知症に関する相談窓口について知っているものはないと回答した人も多くいた。



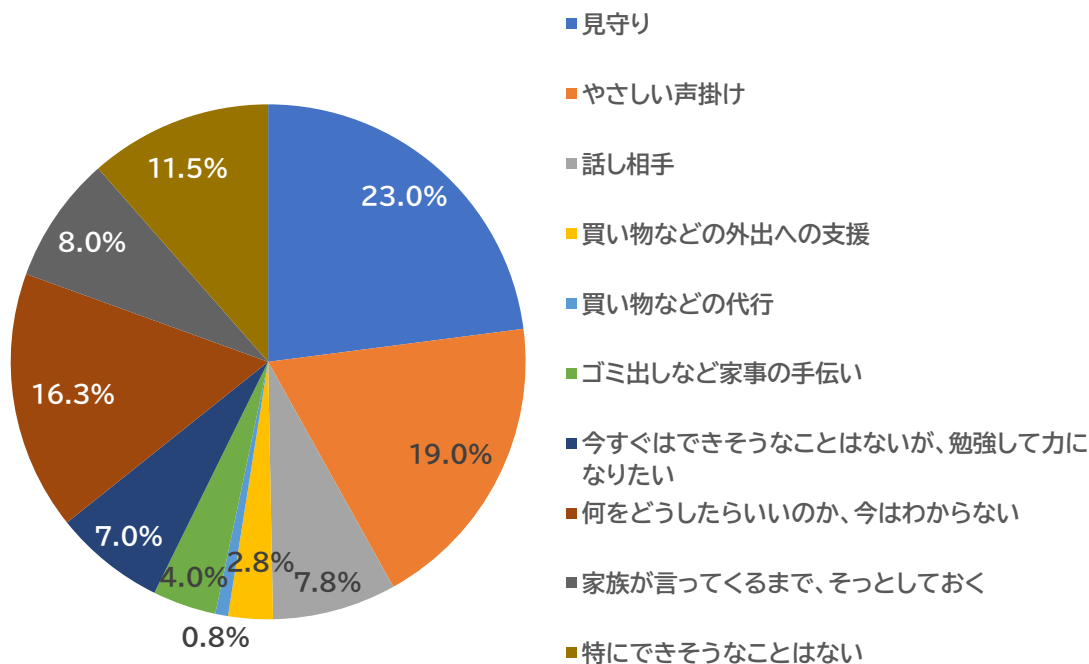
(12) 自分や家族が認知症になったことを、周りに知ってほしいと思うか。

約6割が自分や家族が認知症になった場合、周りの人に知ってほしいと思っているという結果になった。



(13)認知症の人が、近所にいた場合、どのような行動ができると思うか。

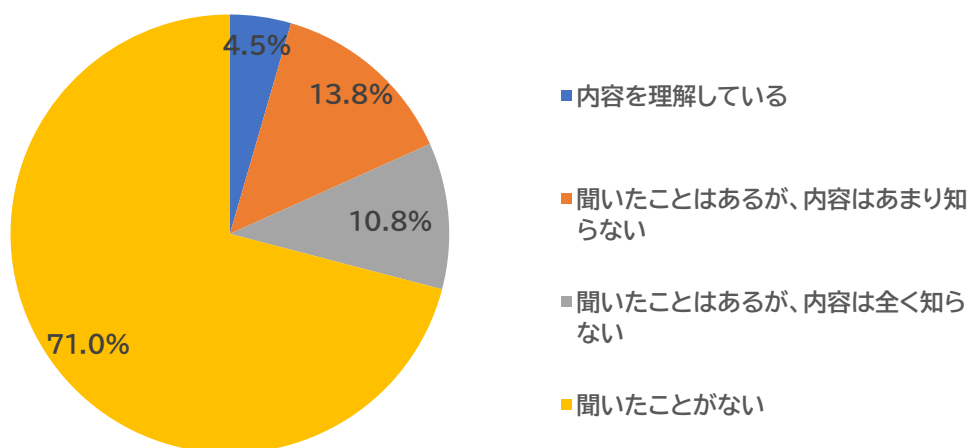
64.2%が何らかの行動ができると考えているという結果になったが、40代では約2割が「特にできそうなことはない」と回答した。



(14)「認知症基本法」、「新しい認知症観」について知っているか。

認知症基本法、新しい認知症観の認知度（「内容を理解している」、「聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」、「聞いたことはあるが、内容は全く知らない」）は29%にとどまった。

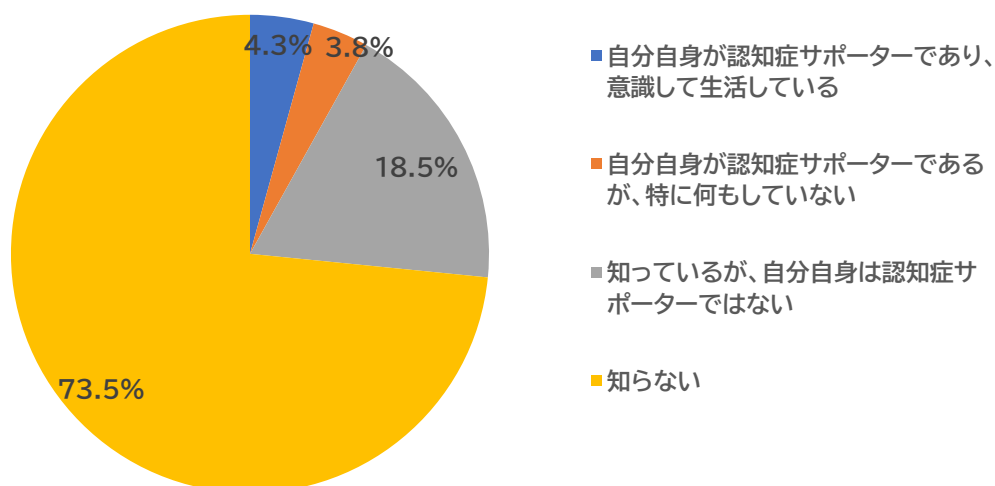
年代別にみると、18～29歳の認知度は45.1%と他の年代に比べかなり高かった。



(15)「認知症サポーター」を知っているか。

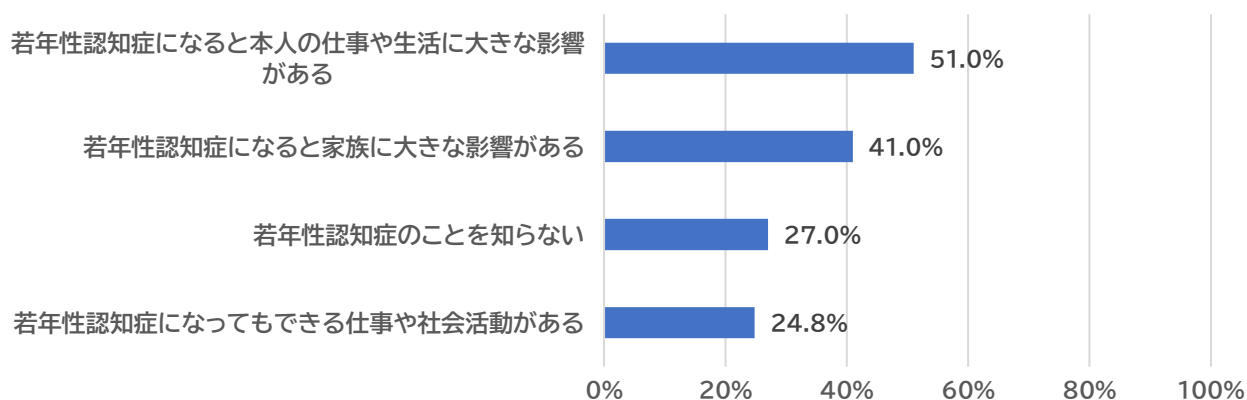
認知症サポーターの認知度（「自分自身が認知症サポーターであり、意識して生活している」、「自分自身が認知症サポーターであるが、特に何もしていない」、「知っているが、自分自身は認知症サポーターではない」）は 26.5%にとどまった。

年代別にみると、18～29 歳の認知度は 45.1%と他の年代に比べかなり高かった。



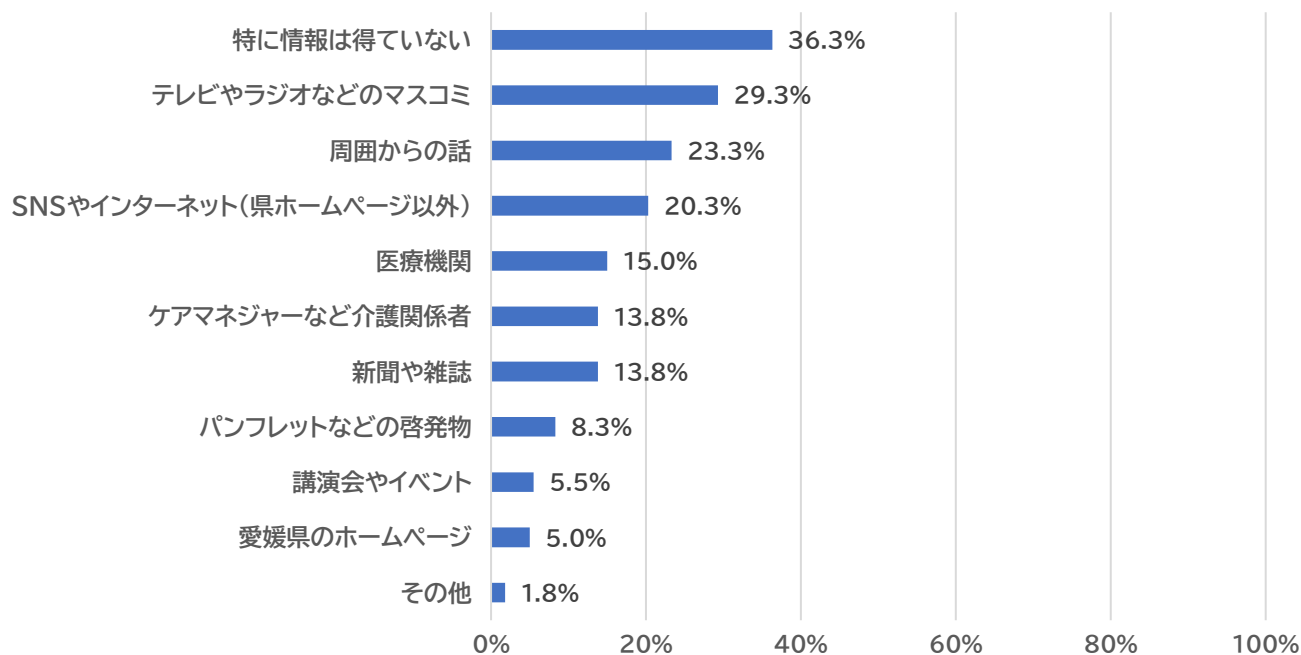
(16)若年性認知症について知っていることはどんなことか。

約半数の人が若年性認知症になると本人や家族に大きな影響があると認識しているという結果になった。



(17)認知症に関する情報を何から得ているか。

約 6 割は何らかの方法で認知症に関する情報を得ているという結果になった。



(18)県の普及啓発活動で参加したり知っていたりするものはあるか。

県が実施している普及啓発活動を知らないとの回答が 86.3%にのぼり、周知方法に課題があることがわかった。

